

令和3（2021）年度

公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する
評価結果報告書

令和4（2022）年9月

公立大学法人長野県立大学評価委員会

令和3（2021）年度の業務実績評価について

公立大学法人長野県立大学評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第78条の2の規定に基づき、公立大学法人長野県立大学（以下「長野県立大学」という。）の令和3（2021）年度業務実績について、中期目標・中期計画に定められた項目の進捗状況または達成状況について評価を行った。

I 評価の基本方針・評価方法

1 評価の基本的な考え方

- (1) 評価は、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的にを行い、法人の中期計画の進捗状況を評定するものとする。
- (2) 評価は、教育研究の特性、自主性・自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (3) 評価の一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、地域社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 中期目標の達成を確保する上で、支障となると考えられる業務運営上の課題を明らかにし、業務の改善・充実に資する。
- (5) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや、次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。

2 評価方法

評価に当たっては、「公立大学法人長野県立大学の業務実績評価に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）及び「公立大学法人長野県立大学の各事業年度の業務実績に関する評価に係る実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて実施した。

3 評価の手順（実施要領から抜粋）

評価は以下のとおり実施した。最終的な評定は、評価委員の合議により、意見をまとめ、評価を行った。

(1) 項目別評価

ア 小項目別評価

- ・評価委員会は、公立大学法人長野県立大学から提出された「令和3年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」等について、法人関係者からのヒアリング等により検証を行った。
- ・法人の自己点検評価の結果を踏まえて、進捗状況または達成状況を実施要領別表1に定める年度計画の小項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、「s、a、b、c、d」の5段階で評価を行った。
- ・なお、法人による自己点検評価の結果と評価委員会による評価の結果が異なる場合には、その理由を示すとともに、必要に応じて、大学の教育・研究等の質的向上、大学経営の改善の促進につながるよう、特筆すべき点や進捗が遅れている点等についてもコメントを付すものとした。

イ 大項目別評価

評価委員会は、小項目別評価結果を踏まえ、実施要領別表1に定める大項目ごとに、実施要領別表2に定める評価基準により、中期計画進捗状況または達成状況について、「S、A、B、C、D」の5段階で評価を行った。

(2) 全体評価

評価委員会は、全体評価に当たって、大項目別評価の結果を踏まえ、実施要領別表 2 に定める評価基準により、当該事業年度における法人の中期目標及び中期計画の進捗状況または達成状況の全体について総合的に評価を行った。その際、長野県立大学の活動全体について記述式で評価を行った。

実施要領別表 1 : 年度評価における評価項目

評価区分	評価の対象、内容等
小項目別評価	年度計画の第2から第6の最小項目として記載されている各事項の進捗状況または達成状況 ※年度計画の第7から第12に係る実績は、全体評価の参考情報として用いる。
大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況または達成状況
	1 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 【教育に関する事項】（年度計画第2の1） (1)人材育成の方向
	2 (2)入学者の受入れ
	3 (3)教育の質の向上
	4 (4)学生への支援
	5 【研究に関する事項】（年度計画第2の2）
	6 【地域貢献に関する事項】（年度計画第2の3）
	7 【国際交流に関する事項】（年度計画第2の4）
	8 業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第3）
	9 財務内容に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第4）
	10 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第5）
11 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置（年度計画第6）	
全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況または達成状況

実施要領別表 2 : 年度評価における評価基準

評価区分	評定	評価の基準	評価の目安
小項目別評価	s	中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある	特に優れた実績を上げている（評価委員会が特に認める場合）
	a	中期計画の達成に向けて順調に進んでいる	年度計画を達成している（100%以上）
	b	中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる	概ね年度計画を達成している（80%以上100%未満）
	c	中期計画の進捗はやや遅れている	年度計画を十分には達成できていない（80%未満）
大項目別評価	d	中期計画の達成のためには抜本的な改善が必要である	業務の大幅な改善が必要
	S	中期計画の進捗は優れて順調	特に優れた進行状況にある（評価委員会が特に認める場合）
	A	中期計画の進捗は順調	計画どおり進んでいる（すべてb以上）
	B	中期計画の進捗は概ね順調	概ね計画通り進んでいる（bからaの割合が80%以上100%未満）
全体評価	C	中期計画の進捗はやや遅れている	やや遅れている（bからaの割合が80%未満）
	D	中期計画の進捗は遅れている	業務の大幅な改善が必要（評価委員会が特に認める場合）
		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、大項目別評価から総合的に勘案し、評価
		中期計画の進捗は順調	
	中期計画の進捗は概ね順調		
	中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている	

※「評価の目安」は、評価に当たり判断の目安を示したものであり、実績・成果の水準に加え、計画の難易度、外的要因、取組の経緯・過程等、総合的に勘案して評価する。

Ⅱ 全体評価

1 評価結果

中期計画の進捗は順調

○評価結果の概要

長野県立大学は、「長野県の知の礎となり、未来を切り拓くリーダーを輩出し、世界の持続的発展を可能にする成果を発信することで、人類のより良い未来を創造し、発展させる大学を目指す」との理念のもと、「リーダー輩出」「地域イノベーション」「グローバル発信」という3つの使命を掲げ、平成30(2018)年度から令和5(2023)年度の中期計画に基づき、教育・研究の質の向上や地域貢献活動に積極的に取り組んでいる。

開学4年目となる令和3年度も、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けたものの、他大学の協力を受け早期にワクチンの職域接種を実施するなど、学内の感染防止対策を徹底した上で、教育の質の維持・向上や学生へのきめ細かな支援に、教職員が一丸となって取り組んだ。

特に、初めての卒業生となる第1期生の就職希望者の就職率100%を達成するなど、1年次からのきめ細かなキャリア支援などを評価したい。

また、理事長裁量経費を活用した、学生が地域の方々と連携した催しの開催、松川町や王滝村での活動への学生の参加など、地域と結びついた学生の多様な活動に敬意を表したい。

このように、コロナ禍で活動が制限される中でも特徴的な大学

独自の教育が行われるとともに、ソーシャル・イノベーション創出センターによる地域・高校との連携、SDGsへの取り組み、大学院の設立などにも取り組み、中期計画の達成に向けて順調に進んでいると評価する。

英語教育については、2年次終了時まで全学生がTOEIC600点以上、平均点700点以上を目指す高い目標を掲げ、精力的に取り組んでいる。令和3年度はTOEIC600点以上の割合、平均点ともに過去最高になるなど、大学入学後の英語集中プログラムの実施により、学生の英語力の全体的な底上げはなされているものの、中期計画の目標値の達成に向けて英語力向上の取組の見直しを含めた更なる対策が必要である。

また、科学研究費の毎年度新規申請率80%以上を目指すという目標値が達成されていないなどの課題も見受けられる。

年度計画を達成できなかった項目については、大学の更なる発展に資する目標の達成に向け、要因を検証の上、必要な対策を早急に検討するなど、一層の取組が望まれる。

理事長・学長以下教職員が今回の評価結果における課題に対して共通認識を持ち、中期目標・中期計画の達成に向けて引き続き取り組まれることにより、今後の法人運営の改善や大学の更なる発展につながることを期待する。

Ⅲ 項目別評価

(i) 大項目別評価結果 (一覧)

評価委員会における小項目評価に基づく大項目評価の状況は以下のとおりである。本年度は小項目数 95 項目のうち、評価対象 94 項目となった。(1 項目は、すでに中期目標達成済のため評価対象外)

大項目評価*				小項目評価					
				s	a	b	c	d	合計
1	1 教 育	(1) 人材育成の方向	B	0	15	2	1	0	18
2		(2) 入学者の受入れ	A	0	5	0	0	0	5
3		(3) 教育の質の向上	A	0	6	1	0	0	7
4		(4) 学生への支援	A	2	13	0	0	0	15
5	2	研究	B	0	4	1	1	0	6
6	3	地域貢献	A	1	7	0	0	0	8
7	4	国際交流	A	0	5	0	0	0	5
8	5	業務運営	A	0	9	0	0	0	9
9	6	財務	A	0	3	0	0	0	3
10	7	己点検・評価	A	0	3	0	0	0	3
11	8	その他業務運営	A	1	14	0	0	0	15
項目数合計			11	4	84	4	2	0	94
割合 (%)				4.3	89.4	4.3	2.1	0	100

【大項目評価の目安】(実施要領：別表2より)

- S:特に優れた進行状況にある(評価委員会が特に認める場合)
- A:計画どおり進んでいる(すべてb以上)
- B:概ね計画どおり進んでいる(bからaの割合が80%以上100%未満)
- C:やや遅れている(bからaの割合が80%未満)
- D:業務の大幅な改善が必要(評価委員会が特に認める場合)

94の小項目中、s(特筆すべき進行状況にある)が4項目、a(順調に進んでいる)が84項目、b(概ね順調に進んでいる)が4項目、c(やや遅れている)が2項目となった。

(ii) 大項目別評価

1	教育に関する事項 (1)人材育成の方向
B	中期計画の進捗は概ね順調

18個の小項目中、15項目がa(順調に進んでいる)、2項目がb(概ね順調に進んでいる)、1項目がc(やや遅れている)と認められ、大項目評価はB(中期計画の進捗は概ね順調)となった。

1の取組項目(小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	17	0	1	0	18
	割合(%)	0	94.4	0	5.6	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	15	2	1	0	18
	割合(%)	0	83.3	11.1	5.6	0	100

▽評価できる点

- ・学長が学生教育の義務として開学以来続けられている新入生との個別面談が、学生の勉学に対する大きなインセンティブとなっていることを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・今後は学長との個別面談が行えなかった休・退学者以外の新入生に対するフォローアップや面談の効果検証を検討していただき

たい。

- ・ 3、4年次の学生を対象とした英語科目の開講で、事業内容や効果を検証し、学生の英語力向上に取り組まれない。
- ・ TOEIC オンライン講座の受講者数が少ないままであることから、TOEIC の目標達成に向けた更なる取組が必要である。
- ・ 2年次修了時の TOEIC 点数の目標（全学生 600 点以上、平均点 700 点以上）が、4年連続で目標値を達成しておらず、中期計画の目標達成に向けて、各小項目における英語力向上の取組の見直しを含めた抜本的な対策をとる必要があると考えられる。

2	教育に関する事項 (2) 入学者の受入れ
A	中期計画の進捗は順調

5 個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

2 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・ コンソーシアム信州の単位互換授業に積極的に参加されることを期待する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・ 学長による高校訪問数をさらに増やしてみようか。

3	教育に関する事項 (3) 教育の質の向上
A	中期計画の進捗は順調

7 個の小項目中、6 項目が a（順調に進んでいる）、1 項目が b（概ね順調に進んでいる）と認められ、大項目評価は A（中期計画の進捗は順調）となった。

3 の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	6	1	0	0	7
	割合（%）	0	85.7	14.3	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	6	1	0	0	7
	割合（%）	0	85.7	14.3	0	0	100

▽評価できる点

- ・ 成績優秀者への学長表彰は学生の GPA へのモチベーションを高める意味で価値あるものと評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・ 教員が自身の GPA 分布と他教員の GPA 分布を比較・検証するなど、授業内容の改善に向けての取組みも試みて頂きたい。
※GPA: Grade Point Average の略: 各科目の成績から特定の方式によって算出された学生の成績評価値を用いる制度
- ・ 学生調査により把握された予習・復習時間を分析し、学生の授業

理解の深化に役立てていくことを期待する。

- ・教員相互の授業参観により授業内容・方法の改善に役立てているが、発信力ゼミだけではなく、より多くの科目、参加人数となるよう拡充に努められたい。

4	教育に関する事項 (4) 学生への支援
A	中期計画の進捗は順調

15 個の小項目中、2 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、13 項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

4 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	2	13	0	0	0	15
	割合 (%)	13.3	86.7	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	2	13	0	0	0	15
	割合 (%)	13.3	86.7	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・KENDAI MARCHE 開催による市街地の活性化の課題や松川町や王滝村における取り組みへの学生の参加など、多様な地域に根付いていこうとする活動の実施を高く評価する。
- ・1 年次から 4 年次生の全員に対してきめ細かなキャリア支援策を実施し、特に就職内定者 16 名を就職アドバイザーに任命し、その経験を直ちに後輩にフィードバックをする取組を高く評価する。

- ・修学支援が必要な学生に対するきめ細かな支援を評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・経済的に困窮する学生に対する支援のあり方について目配りしつつ、引き続き経済的理由による退学者 0 人の達成を目指した取り組みを期待する。

5	研究に関する事項
B	中期計画の進捗は概ね順調

6 個の小項目中、4 項目が a (順調に進んでいる)、1 項目が b (概ね順調に進んでいる)、1 項目が c (やや遅れている) と認められ、大項目評価は B (中期計画の進捗は概ね順調) となった。

5 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	1	0	6
	割合 (%)	0	83.3	0	16.7	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	4	1	1	0	6
	割合 (%)	0	66.7	16.7	16.7	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・長野県のシンクタンクとして、多様な地域課題の研究や各教員の研究成果の積極的な情報発信に、一層取り組まれることを期待する。
- ・科学研究費補助金に係る教員の新規申請率が、4 年連続して年度計画の目標が未達成であり、継続者を除いた新規申請率が前

年より下がっている。新規申請率の向上に向け、更なる取組を検討されたい。

- ・教員の研究実績の情報が不足している。研究成果・実績の情報を積極的に発信していただきたい。

6	地域貢献に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

8個の小項目中、1項目がs（特筆すべき進行状況にある）、7項目がa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

6の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	7	0	0	0	8
	割合（%）	12.5	87.5	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・毎年ソーシャル・イノベーション創出センターを窓口、県内教育機関等との連携に積極的に取り組み、多様な学びの機会を提供したことを高く評価する。
- ・学生が社会貢献活動に参加することは素晴らしいことなので、引き続き学生が参加できる機会を設けていただきたい。
- ・各地域コーディネーターの活動には敬意を表する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・寄付講座が定着するような組み立てに努められたい。
- ・「象山未来塾」について、1年生が自身のキャリアと向き合えるようなイノベティブな内容のプログラムを充実されたい。

7	国際交流に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

5個の小項目全てがa（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

7の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	5	0	0	0	5
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・コロナ禍において、大学初の交換留学に学生を派遣するなど最大限の努力をされてきたものと評価したい。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・留学生の交流については、コロナ禍ではあるが、これまでの学内における学生の交流だけではなく、今後は学外における交流を検討されてはどうか。

8	業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

9個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

8の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	9	0	0	0	9
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	9	0	0	0	9
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・全職員がSD研修に1回以上参加するという年度目標は達成したが、各職員がさらに多くの研修に参加し、一層の資質向上につながるよう努められたい。

9	財務内容に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

9の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・前年と比較して大幅な外部資金を獲得したことは評価できる。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・他の研究との兼ね合いもあるが、さらに外部資金獲得の件数が増加するように努められたい。

10	自己点検・評価及び情報の提供に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

3個の小項目すべてが a（順調に進んでいる）と認められ、大項目評価はA（中期計画の進捗は順調）となった。

10の取組項目（小項目の数）		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	0	3	0	0	0	3
	割合（%）	0	100	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・中間段階の自己点検結果を理事会、経営審議会で共有したことは評価できる。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・県立大学は県内高校に、まだ知られていない部分が多いと考えられることから、高校訪問は積極的に実施していただき、学長から直接、学校長等に、県立大学が取り組む特徴ある教育の重要性を伝えていただきたい。

11	その他業務運営に関する事項
A	中期計画の進捗は順調

15 個の小項目中、1 項目が s (特筆すべき進行状況にある)、14 項目が a (順調に進んでいる) と認められ、大項目評価は A (中期計画の進捗は順調) となった。

11 の取組項目 (小項目の数)		s	a	b	c	d	合計
法人の自己評価	項目数	1	14	0	0	0	15
	割合 (%)	6.7	93.3	0	0	0	100
評価委員会の評価	項目数	1	14	0	0	0	15
	割合 (%)	6.7	93.3	0	0	0	100

▽評価できる点

- ・医療機関を持たない大学が、他大学の協力を得ながら、早期にワクチンの職域接種を実施したことを高く評価する。

- ・学生が地域の一員として、自衛消防団に編成されている点を評価する。
- ・国公立大学として初めて使用電力の再生可能エネルギー100%を達成し、SDGs の取り組みを推進する大学として、県内外に広く認知されたことを評価する。

▼課題となる点や今後の展開に期待する点

- ・個人の事情はあるにしても、教職員の健康診断の受診率 100%を徹底することを目指し、受診勧奨に努めていただきたい。
- ・情報発信だけでなく、個人情報保護や情報セキュリティに関するウェブ研修、自己チェック等を定期的実施するなど、最大限のセキュリティ対策に努めていただきたい。
- ・全教職員がハラスメント研修を受講するように義務付け開催方法や時期などを工夫し定期的に繰り返し実施されたい。

参考意見

評価結果報告書【資料編】のコメントには記載していないものの、法人運営全般の改善や教育・研究の質の向上を目的として、法人への期待や要望、今後参考となる事項について「参考意見書」としてまとめた。

○評価の経緯

令和4年6月30日	「令和3年度公立大学法人長野県立大学の業務の実績に関する報告書」の公表・提出 (法人)
7月22日	公立大学法人長野県立大学評価委員会 法人ヒアリング ・業務実績報告書についての評価委員からの質問に対する法人からの説明、質疑応答
8月1日	第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
8月12日	第2回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・業務実績に関する小項目評価の検討
9月5日	第3回公立大学法人長野県立大学評価委員会 ・大項目・全体評価の検討 ・評価結果報告書の検討
9月16日	評価委員会から知事へ「令和3年度公立大学法人長野県立大学の業務実績に関する評価結果報告」の提出

○公立大学法人長野県立大学評価委員会委員

(五十音順、敬称略)

職	氏名	役職名
委員長	山沢 清人	信州大学 名誉教授
委員	生駒 和夫	公認会計士
委員	伊藤 かおる	(株) コミュニケーションズ・アイ 代表取締役社長
委員	沼尾 波子	東洋大学 国際学部 教授
委員	山浦 愛幸	(一社) 長野県経営者協会 名誉会長 (株) 八十二銀行 顧問